

平成 29 年度 学校法人 三幸学園 横浜リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 齋藤 政臣

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 星野義倫

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 29 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

●退学率低減・皆精勤率向上

→H27 年度から皆精勤率向上の為に担任とクラス委員との連携強化、生徒同士のアプローチも強化した。
また、皆精勤優秀クラスの貼り出しをするなどの取り組みも行った。

[学校関係者評価委員会コメント]

鈴木委員⇒自身がリゾスポ在学中精勤。とにかく学校が楽しかったから通えた。

園山委員⇒将来への目標・目的がしっかりしていると、学校へ来る意欲が湧き、さらに情熱のある先生から受ける授業が目標につながっていて楽しいのではないかと。

●皆精勤者の増加

⇒H28 年度と比べ、H29 年度は皆精勤者が 13 名増加した。

●産学連携の強化

→JRFU様、DeNA 様、横浜FCとの連携を強化。

- ・JRFU様:トッパリーグ、ジャパンセブンズ、横浜大通り公園でのラグビー体験スタッフ
- ・DeNA様:野球スクール運営補助、公式試合のボディケアブース出展
- ・横浜FC様:神奈川県民DAYでの連携やボールボーイなどの派遣

[学校関係者評価委員会コメント]

星野委員⇒プロチームとの関わりは生徒にとって「関わっている」感が強いのではないかと。規模は関係なく自分が通っていたサッカーチームに関わるなどの部分にも価値を感じてほしい。

また大きなイベントに「出て終わり」ではなく、事前事後の学校側の対応も大切ではないかと。

園山委員⇒「健康づくりに対してリゾスポ生としてできること」これを地域連携に出来ると良いのではないかと。
生徒から地域の方向けのウォーキングイベントの案が出てきている。

鈴木委員⇒学校開放して、地域の方にトレーニング等提供できる機会があればよいのではないかと。
学校の中を見てもらって知ってもらう機会を作ってはどうか。

三澤委員⇒地域貢献にもつながるので、前向きに検討していきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 3 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

- 教育理念、目標をまずは生徒に浸透させていくこと

② 今後の改善方策

【H29 実施策】

- 浸透方法として目指す人物像の掲示を行った
- 生徒自ら情報をキャッチする習慣づけとして教務掲示板(スタディサプリ)を活用した
- 保護者への共通理解を得る為に、保護者への担任挨拶文の郵送と挨拶のTEL 掛けを実施した

[学校関係者評価委員会コメント]

横矢委員⇒飛鳥未来高校では年度当初に保護者一人一人に連絡。

春・冬は在校生保護者向け説明会、また三者面談もある。

園山委員⇒学校生活を通じて自分の子供が良い方向に変化することで、保護者様からの信頼につながる。

生徒が変わるためのヒントを生徒に与えてあげることが学校の役目ではないか。

小さなことでも良いので変化の情報提供を保護者様にできると良い。

斎藤委員⇒「良いことの報告」ができていない部分があるので、その報告ができる機会があると良い。

担任・教科担当と連携し、実施していきたい。

星野委員⇒子供の学校生活を知る術として、保護者様が学校の SNS を閲覧していることが多い。学校で自

分の子供がどう過ごしているのか知りたいのではないかと。担任の顔が見えると良い。

【H30 実施策】

- 今後、HRにて人材育成方針を伝える機会を設ける (スポーツを通じて、健康と楽しさを提供する人材)
- 教務掲示板、保護者への連絡強化

③ 特記事項

- 業界ニーズを深く理解し、教育に活かしていくことを目的とし複数の関連企業、団体と産学連携し、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- 新しい教員にも三幸学園や横浜Rの方針を伝えていく必要がある

② 今後の改善方策

【H29 実施策】

- 教務掲示板の利用を浸透させ、HR を有効活用し情報伝達の漏れを防ぐ
- 新任教員17名向けに同じ価値観を持てるよう研修を実施した
- 授業アンケートを新任教員にはフィードバックの機会を設けた

[学校関係者評価委員会コメント]

横矢委員⇒飛鳥未来の講師陣との情報共有は LINE グループで行っている。

園山委員⇒学校からの情報はタイムリーに入っている。

担任が生徒と向き合う時間&講師と向き合う時間が増えると、もっと良い関係性を築けるのではないか。

三澤委員⇒H30 年度も新入職員へのフィードバックは行っていきたい。

③ 特記事項

- 定期的(年3回:3月、8月、2月)に教職員の会議を実施し、運営方針等の浸透とともに情報共有を積極的に行っている。

※全体会議時に学科会を行っている(H29 年度は 3 月、8 月、2 月の2回実施)

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- 実習単位不良者について、受け入れ先の問題でなくこちらの実習事前指導不足があった
- 教科間、教員間で成績評価基準に差がある

② 今後の改善方策

【H29 実施策】

- あきらめない教育の理解を深める為に、成績判定会議・全体会議で繰り返し伝える
- ボランティア活動(キリンチャレンジカップ、スパルタンレースなどに参加する事によって、内向きな生徒を外向きになるよう経験させた)

【H30 実施策】

- 皆精勤率UPの為の対策として、担任ペア制度を実施

[学校関係者評価委員会コメント]

横矢委員⇒長くいらっしゃる先生は成績のつけ方や授業の進め方が確立されてしまっているの、最近入職された先生の方が柔軟に対応していただける。

星野委員⇒教育理念の共有と評価基準の共有は同じくらい大切に、同じくらい時間をかけた方が良い。
学校としてのガイドラインは重要なものである。

園山委員⇒サービス・事業の品質(先生・シラバス)にバラつきがあると、生徒からの不信感につながるの、

大事なものと捉えている。

③ 特記事項

- 横浜マラソンボランティア実施
- JRFU横浜大通り公園での体験イベント実施
- 地域の3・4・5歳児向けの体操教室「リソスポ大陸」を実施

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- 資格取得のための受験率及び取得率の向上
- 退学率の低減

② 今後の改善方策

【H29 実施策】

- クラス状況報告を週1回の担任会議にて共有。また担任以外の教科担当にも情報を共有し学校全体として退学率低減に取り組む

【H30 実施策】

- 授業内で資格取得のための動機づけ、校内の雰囲気作りの為の装飾強化。教科担当を中心に担任からもサポートを行う。

③ 特記事項

【退学率】

H29年度 健康スポーツ科 退学率 5/115名 4.34%

(退学理由:1年2人(進路変更、目標喪失)2年3人(経済的理由、人間関係、目標喪失))

H28年度 健康スポーツ科 退学率 10/151名 6.62%

H27年度 健康スポーツ科 退学率 16/146名 10.96%

[学校関係者評価委員会コメント]

鈴木委員⇒目的がない生徒がスポーツインストラクターコースやスポーツビジネスコースに偏ってくるのではないか。他のコースは専門性が高いので、本当にその業界をやりたい生徒しか来ない。

斎藤委員⇒全てのコースで専門性の高いカリキュラム・講師陣をそろえているので、生徒にとって魅力ある授業展開を続けていきたい。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- 卒業生 SNS として「SANKO リンク」を設置しているが、まだまだ認知を含めて不足している。

② 今後の改善方策

【H29 実施策】

- 卒業生講話(リポートーク)をH29 年度は定期的実施した (5～12 月 ※9 月は除く)
5月:37 人 6 月:20 人 7 月:49 人 8 月:17 人 10 月:31 人 11 月:37 人 12 月:14 人

鈴木委員⇒自分も卒業生として後輩に伝える機会を積極的に作っていききたい。

【H30 実施策】

- 幸い卒業生が学校に来てくれる機会が多いので、来校してくれた卒業生に対してリーフレットを配布し
認知拡大に努める
- H30 年 8 月全体会議終了後に同窓会を実施する
(H29 年度は最終HRの際に日程伝達し、同窓会委員も 2 名決めている状況)

山口委員⇒卒業生が来校した際に、覚えていてくれて声をかけてくれることが非常にうれしい。

斎藤委員⇒3000 名近くの卒業生は宝物なので、今後も卒業生に対する定期的なアプローチ、また同窓会の開催を検討していきたい。

③ 特記事項

- 就職サポートシステムとして複数名の教員による就職支援システムを構築している

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- 特になし

② 今後の改善方策

- 年2回(4月、9月)学年別に避難訓練を実施
- 海外研修(フロリダ)、今年度は国内研修も実施予定

③ 特記事項

- 更なる充実を図るため、毎年、実習・インターンシップの新規開拓を行っている
- 全館Wi-fi導入がされた

園山委員⇒Wi-fi導入は授業環境が整備され、非常にありがたく感じる。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- 特になし

② 今後の改善方策

- 特になし

③ 特記事項

- 学納金の決定の際には、他校の学費水準も把握した上で決定している

三澤委員⇒H30 年度も順調に広報活動を行えている。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

- 特になし

② 今後の改善方策

- 昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

③ 特記事項

- 特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- 更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- 教職員会議や掲示物を通じて、法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

③ 特記事項

- 平成26年度自己評価結果より公開開始

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- 一般の方向けの公開講座が少ない

② 今後の改善方策

- 地域貢献につながる公開講座を積極的に実施していく

③ 特記事項

- ボランティア活動については、積極的に取り組んでいる。特にスポーツイベント支援、スポーツチーム支援、幼児スポーツ支援等を中心に様々な活動を実施している。その為、業界関係各位からは、指導者を育成する専修学校という観点から、高い評価を頂いているので引き続き、力を入れていきたい

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的に評価すると、教育活動、財務等については整っており、学生募集状況も順調であると言える。

教育活動においては業界内でもトップレベルの講師陣を揃え、カリキュラムも“業界が求める人材”を基に作成されており、非常に充実している。また、更なる発展のため地域との連携・保護者様との連携強化を図っていきたいと考える。今年度も、各教員が“生徒のために”との統一認識と教員という仕事に責任を持ち、行動することが求められる。学校の取り組みや体制を全教職員に理解・浸透させていく取り組みや機会を増やし、“一体化”出来るようになる事と、今以上に業界や地域から信頼され、必要性の高い専修学校になるよう、より良い学校運営に取り組んでいきたい。